

院長あいさつ

—医療ニーズに応える病院ソリューションを目指して—

平成 27 年 4 月

大津市民病院長 片岡慶正

今年もこの 4 月には多くの志豊かな若手医療スタッフをお迎えしました。本院から 11 名の 1 年目研修医が新たな医師としての第一歩を踏み出しました。新規採用では看護師 21 名、医療技術スタッフ 10 名が希望に満ちて着任しました。患者様の笑顔は“医療現場の光”ですが、研修医をはじめ若手医療スタッフの笑顔は“医療現場の希望”です。やはり“ヒトは宝”です。研修医を含めて新任医師 30 名の着任により常勤医師は昨年度よりも 6 名増加の計 136 名体制で、今年も職員一丸となって地域に最適な医療を提供させていただきます。

『市民とともにある健康・医療拠点』を目指す病院の姿として策定しました病院経営計画も 4 年目となり第 2 ステージに入りました。高度先進医療機器の導入はじめインフラ整備も着実に進み、経営計画に掲げた“がんに一層対応できる病院”としての陣容も大きく飛躍しました。昨年 6 月に導入した内視鏡的手術支援ロボット『ダビンチ』による前立腺手術では多くの患者様にその優れた成果を実感していただいております。去る 3 月 24 日、27 日には『ダビンチ』による県内初および 2 例目の胃がん手術を成功裏に実施しました。最新鋭のリニアックによる放射線治療も順調に症例を重ね、4 月からの化学療法部新設とあわせて、健診センターでの早期発見から、内視鏡および外科的手術治療、化学療法、放射線治療そして緩和ケアに至るまで、すべてのステージのすべてのがん診療にシームレスで集学的な診断～治療体制が一気に整いました。また昨年 12 月から運用試行したドクター・カーも本年度から本格稼働となり、大幅な救急搬入増加の中、ますます地域のニーズに応える形で救急体制も充実しております。本年も第 3 者評価（日本医療機能評価機構、卒後臨床研修評価機構、ISO9001 国際標準化機構）の継続認証に加えて日本病院会 **QI (Quality Indicator)** プロジェクトへの参加により、医療の質・安全の透明性と常なる向上に努めてまいります。最先端の安心・安全な医療提供体制が日々進化する様をお知らせ出来ることは、地域の皆様のご支援のおかげであり、あらためて感謝申し上げます。

『医療は患者ニーズに応じてはじめて、その価値が発揮される』といわれます。患者ニーズに応えると言うは易しくも、個々の場面では大変難しいのが現実です。個人の価値観は年々変化し、高齢化、多彩な疾病構造、洪水化した情報過多の中で、多様かつ複雑化したニーズは千差万別です。求められるニーズは“納得の医療”であるということを心に刻まなければなりません。このニーズに応えられる組織力の積み重ねは、信頼というブランド力の向上と直結する。医療の技術的品質、医療機器設備をはじめ照明、空調などの知覚的メッセージも患者ニーズや満足度につながるが、最後の決め手は人間の手がかりである。やはり現場力はヒトが創り上げるものである。医療は『協力の科学』と集約されるが、こ

の言葉は患者との関連性だけでなく、院内多職種によるチーム医療そのものであり、地域医療連携の円滑な推進力となる重い言葉である。『協力の科学』という言葉は、『敬意の文化』と表裏一体であると解釈したいものです。

少子高齢化の加速度的進行により、わが国では10年後の2025年には国民の4人に1人が75歳以上の後期高齢者となるといわれています。この2025年問題に向けて、国を挙げた医療制度の超加速度的変革の時代に突入しました。『医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実』を旗頭に地域における医療提供体制の再構築、地域包括ケアシステム構築を含めて医療から介護までシームレスな構造的および機能的医療改革ともいえるものです。今後は、在宅医療がますます推進される中で、個々の病院が中心ではなく個々の患者の皆様が中心の医療となります。いいかえれば、地域の病院のベッドだけでなく、かかりつけ医のお世話になる在宅のベッドを含めて地域が一つの病院や施設となる構想（地域包括ケアシステム）です。当院では急性期病院として地域医療支援病院としての責務のもとに、早期からの在宅医療推進を行います。患者の皆様には一日も早い治癒のもとに住み慣れた自宅や地域へ安心してお戻りいただけるように院内外連携を強化したチームとして退院支援のお手伝いをさせていただきます。

わが国は国民皆保険のもとに世界に類を見ない長寿社会を確立しました。今後は、病気になってからの“リアクティブ型医療”ではなく、日頃からの健康推進、疾病予防、疾病管理や生活支援などの“プロアクティブ型医療”の方向性、QOLに焦点をあてた患者中心のエビデンスに基づく“パーソナライズ型医療”となるでしょう。今やわが国の医療分野にはあふれんばかりのビッグデータが存在し、しかも眠っています。電子カルテによる病院情報システムは、診療はもとより医療の質、運営効率、病診連携に資するものですが、地域においてネットワーク共有化されてはじめてその真価を発揮します。医療、介護、福祉をシームレスに包括する“住みやすい街づくり協働”として成長させたいものです。享受されるべきは患者ニーズとベネフィットです。ビッグデータの活用こそが、人に易しい医療—多様な医療ニーズに応える医用ソリューションとして重要です。われわれは、今こそ患者を中心に置いた視点での患者に益する医療環境、すなわちバリューベース・ヘルスケア **value-based healthcare** を次世代に残したいものです。滋賀県が先駆的役割を果たしてスタートしたびわ湖メディカルネットワーク、淡海あさがおネットの成長に期待し、今後はかかりつけ医としての地域の先生方との連動・連携を深めて、地域医療の機能分化を明確化する中で、地域の皆様の医療ニーズにお応えして、本院の役割をよりの確に、よりスピーディーに遂行してまいります。

皆様とともに歩む市民病院にご期待いただければ幸いです。今後とも宜しくお願い申し上げます。

本年度のキーワードは“自発と協働”です。

大津市民病院経営計画第2ステージは、職員一同『プロアクティブ型思考』
で邁進いたします。

大津市民病院経営計画（平成24～30年度）-next stage

【目指す方向性とあるべき病院の姿】

市民とともにある健康・医療拠点

【7つの基本方針】

- ① 質の高い医療を効率的・安定的に24時間365日提供する病院
- ② 幅広く市民の健康をサポートする病院
- ③ 患者やその家族の気持ちを感じ取り行動していく病院
- ④ 地域の医療機関が患者のために協働したくなる病院
- ⑤ がんばりたい医療スタッフをひきつける病院
- ⑥ しっかりとした経営感覚を持った病院
- ⑦ 目標を設定し、持続的に進化する病院

平成27年度における院長卓話- プロアクティブ型医療を目指して

- ✓ 医療におけるリアクティブとプロアクティブ (reactive and proactive)
- ✓ 思考におけるリアクティブとプロアクティブ (reactive and proactive)
- ✓ 自発 self-motivation, initiation と協働 co-operation, collaboration
- ✓ 市民とともにある健康・医療拠点の第2ステージ
- ✓ 多様な医療ニーズに応えられる現場力

“今や時代は、パッシブ(passive、受け身型)やリアクティブ(reactive、事態対応型)は求めない。医療においては先読み力を高めたプロアクティブ(proactive)こそがプロである。”